

文理連携による社会価値 実現プロセス研究拠点: 中間報告

2025年11月19日

拠点長 鶴見裕之

(横浜国立大学

大学院 国際社会科学研究院 教授)

▶ 1. 研究拠点の概要

- ▶ 問：どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか
- ▶ ……社会科学 × 自然科学の研究者協働により、
技術が社会に普及・定着するプロセスを研究

▶ メンバー

- | | |
|------------------|----------------|
| ▶ 鶴見 裕之 (国社) | ▶ 中尾 航 (理工) |
| ▶ 真鍋 誠司 (国社) | ▶ 尾崎 伸吾 (理工) |
| ▶ 大沼 雅也 (国社) | ▶ 鷹尾 祥典 (理工) |
| ▶ 君島 美葵子 (国社) | ▶ 福田 淳二 (理工) |
| ▶ 安本 雅典 (環境情報) | ▶ 丸尾 昭二 (理工) |
| ▶ 矢吹 命大 (経営戦略本部) | ▶ 島 圭介 (環境情報) |
| ▶ 齊藤 孝祐 (現:上智大) | ▶ 吉岡 克成 (環境情報) |

II. 拠点活動と研究アプローチ

- ▶ 第1フェーズ(2014年~2018年)
 - ▶ YNUコロキウム
 - ▶ 分野横断的議論を深める研究会
- ▶ 第2フェーズ(2018年~2022年)
 - ▶ 重工業メーカーとのビジネス・イノベーション事業
- ▶ 第3フェーズ(2020年~2025年)
 - ▶ 科研費 基盤研究B (20H01549) を取得し、研究成果を深化、発信

○第3フェーズの研究アプローチ

- ▶ 理論研究：分野横断で分析視座を構築
- ▶ 事例研究：企業へのヒアリング調査
- ▶ 調査研究：市民1600名超への調査

問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するか
→ 答えを「理論」「企業」「市民」の観点から
から多面的に模索

Ⅲ. 研究成果① 技術は万能か？

(技術万能主義)

- ▶ 鶴見・有吉・西岡(2023): テクノ・ソリューションイズムの研究
 - ▶ 買物・交通弱者問題は、自動運転や自動配送による解決が期待される領域
 - ▶ しかし、老年医学の研究レビューにより、外出・買物が死亡リスク低下やADL（日常生活動作）維持に統計的に有意な影響をもつことを確認
 - 技術が生活の質（QOL）を下げる“罠”になり得る
- ▶ 問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか？
- 答: 技術頼みの解決では不十分。人間と社会の視点が不可欠。

関連論文: 鶴見 裕之, 有吉 亮, 西岡 隆暢 (2023) 「高齢者の買物弱者問題や交通弱者問題に対するデジタル時代の支援 - テクノ・ソリューションイズムの罠: 問題解決におけるバランスの重要性」 『老年精神医学雑誌』

研究成果②： 技術の“真価”をどう測るか？

- ▶ 君島・鶴見(2025):バランス・スコアカード (BSC)研究
 - ▶ 企業のマーケティング活動への**長期的・非財務的評価**の重要性を分析
 - 技術の持続的定着にも、人間中心の非財務的な評価が不可欠
- ▶ 問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか？
 - 答: 技術を経済性だけでなく、QOLや社会便益でも評価する包括的な価値測定システムが必要

関連論文: 君島 美葵子・鶴見 裕之 (2025) 「包括的なマーケティング業績測定システムとしてのBSCの活用」『横浜経営研究』

研究成果③： 技術の成熟が持続し、信頼を高めるには？

- ▶ 鄒・真鍋・木村(2025): OOPi (アウトバウンド型オープン・プロセス・イノベーション) 研究
 - ▶ ヒアリング調査より、トヨタから青山製作所への「自工程完結」の知識移転により、**工数58%削減**と供給網の品質向上の実現を確認
- ▶ 問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか？
→ 答: **パートナーへの技術・知識移転が「改善の連鎖」を生み、技術の成熟と社会からの信頼を高める**

関連論文: 鄒 雅虹・真鍋 誠司・木村 泰三(2025)「アウトバウンド型オープン・プロセス・イノベーションスタッフの自工程完結の事例分析」『横浜国際社会科学研究』など

研究成果④： 社会に根づく「市民対話」を生むには？

- ▶ 大沼・小林(2025): 技術社会実装における市民対話（ELSI）研究
 - ▶ 身体支援技術(例:歩行支援ロボ)をめぐる専門家との対話意欲を調査 (n=約1600)
 - ▶ 分析から、対話意欲が高いのは「社会貢献意欲」のみならず、「**当事者意識**」「**リードユーザー性**」「**コミュニティとの連帯感**」をもつ層であることを確認

▶ 問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか？

→ 答: 技術は「専門家の論理」だけでは社会に定着しない。開発段階から、市民と共に考え、共に創るプロセスが重要。

関連論文: 大沼 雅也・小林 知恵 (2025) 「ELSIに関する市民対話 ~関与の背景をさぐる探索的研究~」『科学技術コミュニケーション』

研究成果⑤： 安全と協調をどう両立させるか？

- ▶ 斎藤(2021): 経済安全保障とイノベーションの関係研究
 - ▶ 米国の対外投資規制の観点から、新興技術（AI・5G等）の米中対立の構図を分析
 - ▶ 技術流出を防ぐための厳格な規制が、国際連携や外部投資を阻害し、**結果的に自国の技術競争力を弱める**というジレンマを明らかにした
- ▶ 問: どうしたら技術は良い形で社会に定着するのか？
→ 答: **技術の定着には、信頼とルールに基づく国際協調の仕組みが不可欠**

関連論文: 斎藤 孝祐 (2021) 「イノベーション・エコシステムの拡大と投資規制—「安全保障」をめぐる価値対立とその変容—」『国際安全保障』等

IV. 結論（本研究拠点の総括）

○技術を良い形で社会に定着させるための「社会価値実現への4原則」

- ▶ ① 人間中心で問い直す — 技術を過信していないか？人を見ているか？
- ▶ ② 長期的・非財務価値で評価する — 経済性だけで測っていないか？
- ▶ ③ オープンに改善する — 技術を過度に囲い込んでいないか？
- ▶ ④ 市民・国際社会と対話する — 市民や国際社会との信頼は築かれているか？